

## 空母艦載機移駐反対・愛宕山米軍住宅建設反対

### 「岩国米軍基地の強化に反対する第二次署名」のお願い

政府は、集団的自衛権の行使にむけて、立法化を進めようとしています。これらが実現すると、日米両軍の基地である岩国は、朝鮮有事に対応した日米両軍による軍事行動の最前線基地として機能させられることは火を見るより明らかです。集団的自衛権行使と結びついて、沖縄の辺野古新基地建設にむけた工事着工、京丹後米軍Xバンドレーダー基地建設のための工事着工が始まっています。岩国での米軍住宅建設も住民への説明もないまま着工が開始されました。岩国基地は、こうした米軍基地強化・新設全体の新たな拠点的位置をもつものとして強化されようとしています。

岩国基地は、2017年を目標に大幅に強化されようとしています。日米両政府は、厚木からの空母艦載機59機の岩国移駐、F35配備、愛宕山米軍住宅建設、これらを2017年には完了するとしています。それだけではありません。2014年、普天間基地からKC130空中給油機部隊（15機）の岩国移駐がすでに進められています。加えて、オスプレイの低空飛行訓練の拠点としても岩国基地は機能させられています。

このままだと、艦載機移駐と米軍住宅建設によって、2017年には、岩国米軍基地は、極東最大の海兵隊基地へと変貌させられてしまいます。米軍住宅は、愛宕山に270戸、米軍基地内に760戸と増設されようとしています。これらが実現すると、岩国は巨大な米軍基地に伴う米兵の街へと変貌させられてしまうのです。

そもそも、岩国市民は、2006年に実施された住民投票で、空母艦載機移駐に反対する意思を明確にしてきました。これに対して、歴代の政府は岩国市民の願いを聞くこともなく、逆に、市庁舎建設のための国側負担費用を停止するなど、報復というべき措置をもって艦載機移駐の受け入れを強引に認めさせようとしてきたのです。愛宕山開発についても、そもそも米軍住宅建設のためではありませんでした。しかし、国が愛宕山敷地を買い取り、米軍住宅建設を強引に進めてきたのです。住民をないがしろにして岩国基地強化を進める日米両政府に対して、これに反対する声を、岩国のみならず全国から政府に提出し続けたいと思います。第一次署名に続き、第二次署名へのご協力をお願いします。

呼びかけ（署名集約団体）・アジア共同行動日本連絡会議、岩国・労働者反戦交流集会実行委、岩国ユースアクション in 関西

